

山元町立山下第二小学校

2014年 11月 11日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 毎日新聞『<東日本大震災>素早い判断、児童救う 宮城の2小学校』2011年4月25日
- (2) 「東日本大震災教職員が語る 子ども・いのち・未来」宮城県教職員組合(2012)明石書店

【場所】

海岸から400mほどの位置にある。
住所:宮城県亶理郡山元町高瀬古谷地1
※現在は山下小学校に併設して再開。



【東日本大震災による被害】

津波により2階建て校舎の2階床付近まで浸水。
現在は校舎が取り壊されている。

赤い範囲:山元町

緑の範囲:山下第二小学校

【震災当日の様子】

地震発生後、テレビで津波警報を確認。揺れが弱くなってから児童を校庭へ避難させ、迎えに来た保護者に児童を引き渡していたが、走ってきた男性に「早く逃げろ。津波が来るぞ」と声をかけられ、2次避難に切り替えた。

瓦葺きの校舎で屋上避難ができなかったため、約4km離れた役場への避難を開始した。津波は役場のある高台の手前まで到達している。車を出せる先生が出来る限り子どもをピストン輸送し、車に乗れなかった残りの30人ほどの児童を他の先生が徒歩で役場まで連れて行った。この時学校に残っていた児童は70人ほどで、使った車は6台である。全員が歩いていたら間に合わなかったと当時の教員が証言している。

校長だけが迎えに来た保護者に児童の避難を伝える役目があるため学校に残り、翌日、自衛隊のヘリで救助された。(1)(2)

【調査して言えること】

学校の標高は2.5mで、海が近く、地震の際、津波を想定した迅速な避難が必要な場所である。

学校の周囲には高台がなく、一番近い高台は震災時に実際に避難した役場で、学校から約4km離れている。車が使えない場合も想定すると、学校外への避難が難しい学校であったと言える。



震災直後の学校の様子が分かる看板(2014/10/31撮影)

※2階建ての校舎であったことが分かる。



北から見た学校のあった場所(2014/10/31撮影)